

史資料は 加工して ナンボ

デジタルアーカイブ学会シンポジウム
「博物館デジタルアーカイブの現在地」
(第2回：利活用編)

2025年1月30日 梅林秀行

1



梅林秀行

京都高低差崖会

京都ノートルダム女子大学非常勤講師

関心分野
都市史・景観史

2

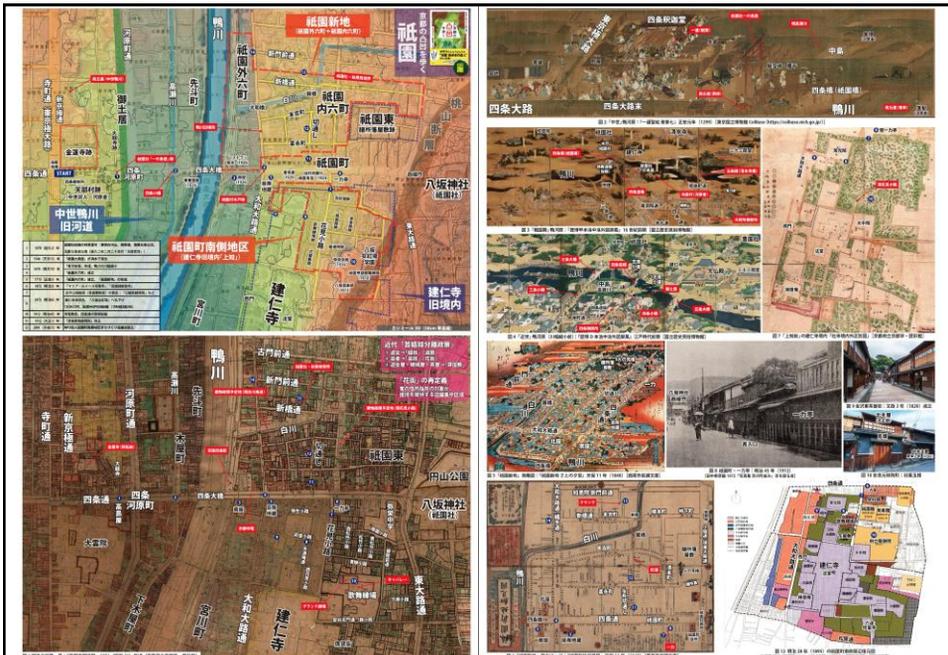


1. 2015年1月「京都・御土居編」
2. 2015年6月「奈良編」
3. 2016年4月「京都・嵐山編」
4. 2016年5月「京都・伏見編」
5. 2017年4月「京都・祇園編」
6. 2018年4月「京都・銀閣寺編」
7. 2018年4月「京都・東山編」
8. 2019年7月「京都・西陣編」



2017年 京都・祇園編の一コマ

3



フィールドワーク資料：祇園

4



5

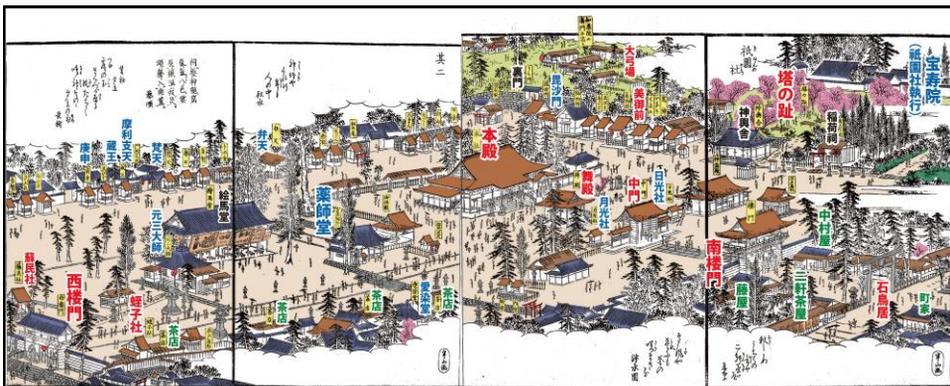


図1 幕末の祇園『花洛名勝図絵』元治元年（1864）
〔国際日本文化研究センターを着色加筆〕

史資料の観察点

1. 境内植生：社叢の有無、桜の偏在
2. 建築屋根材の違い：板葺き、瓦葺き

→ 「現景観」の再検討：景観の構築性（歴史性）評価

→ 「京都観」の脱構築：本質主義的語りへの疑義

6

図版作成ワークフロー



『花洛名勝図絵』 元治元年（1864）

7

国際日本文化研究センター

平安京都名所図会データベース



本データベースは近代以前の平安・京都の風俗を主に絵図を通して研究するために、国際日本文化研究センターが所蔵する江戸時代から明治期にかけての平安・京都を描いた「名所図会」の高精細画像データベースである。平成15年現在、当センターが所蔵する平安・京都に関する名所図会は、『都名所図会』『拾遺都名所図会』『都林泉名勝図会』『花洛名勝図会』『花洛細見図』『都名所画譜』『京都名所順覧記』『京都名所撮影』の八点であるが、これらに基づき順次データベースを構築するとともに、今後資料の層の充実ははかっていく予定である。

50音検索

利用の方法

日文研のホームページ

[『都名所図会』](#) [『拾遺都名所図会』](#) [『都林泉名勝図会』](#) [『花洛名勝図会』](#) [『花洛細見図』](#) [『都名所画譜』](#) [『京都名所順覧記』](#) [『京都名所撮影』](#)

平安京都名所図会データベース 国際日本文化研究センター

8



9



10

国際日本文化研究センター

データベース

データベース > 利用手続きのご案内 > データベースのご案内

利用手続きのご案内 (下記以外のデータベースは、手続き不要でご利用いただけます)

メールでの利用申請が必要なデータベース：「井上哲次郎宛書簡」「民事判決原本」

【申請方法】 「井上哲次郎宛書簡」もしくは「民事判決原本」の利用をご希望の方は、以下の項目をメールアドレス宛に、「請求書」までご連絡ください。おて必要事項をメールにてお知らせします。

メールアドレス記載する項目

- 氏名
- 所属大学名・機関名(会社名、学校名は学号もご記入ください)
- 連絡先(電話番号、メールアドレス)
- 利用を希望するデータベース
- データベースの利用目的、研究内容の概要

※ 記入いただいた情報は、データベースの利用者管理の目的以外には利用しません。

※ 以下の【利用規約】を提出するのみに利用いただけます。

【請求先】 国際日本文化研究センター情報管理課電子情報係
 idm@nichiin.ac.jp (メールに書き添えてください)

【利用規約】

- 大学、短期大学、高等専門学校及び大学共同利用機関法人の教職員で、日本文化を研究している者又は日本文化の研究を支援している方
- 講師、准講師等の職務で、日本文化を研究している者又は支援している方
- 専任講師の職務で、日本文化を研究している者又は支援している方
- 小・中・高등학교の教職員で、日本文化に関する授業を行われる方又は支援している方
- 研究職の職務で、日本文化に関する研究を行われる方又は支援している方
- 図書館の図書で、日本文化に関する研究を行われる方又は支援している方
- 大学教員で、日本文化を研究している方
- 大学教員の職務で、日本文化を研究している方
- 大学の教職で、日本文化に関する科目を担っている方
- 大学教員で、日本文化に関する研究センターに所属している方
- 大学院生で2年以上在籍し、日本文化に関する専門科目を履修している方
- 研究員候補者の採用を待って、日本文化の研究を行われる方
- 日本語学専攻の専攻科生で、日本文化に関する研究を行われる方
- 研究員候補者に該当する大学で、日本文化に関する研究を行われる方
- 日本文化に関する学部に所属している者又は研究員
- 出願及び選考段階で、特別利用申請を行われるための事前連絡をする必要がある方

利用規約

国際日本文化研究センター

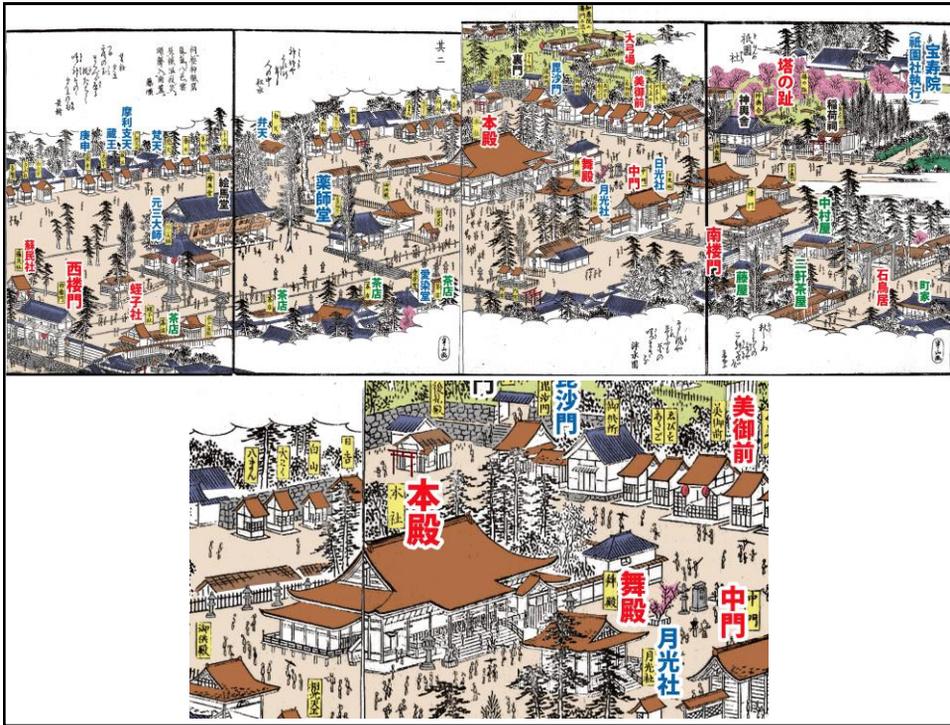
11

図版作成ワークフロー



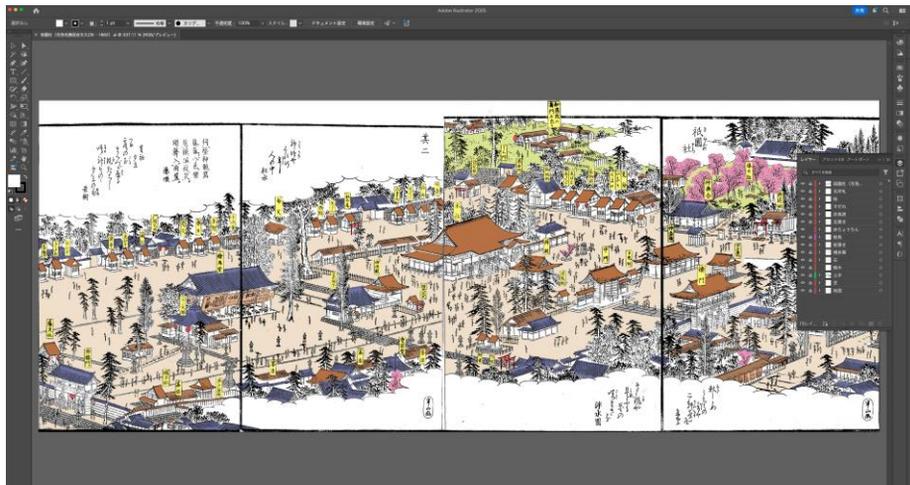
ダウンロードした生データ
 該当画像は二枚分割→データ結合作業

12



13

図版作成ワークフロー



項目ごとに着色作業（描線を最上部に）

Adobe Illustrator使用

14



フィールドワーク資料：平安神宮

17

1. **視認性**向上

2. **所見**の明示

加工なくして**活用**なし

18

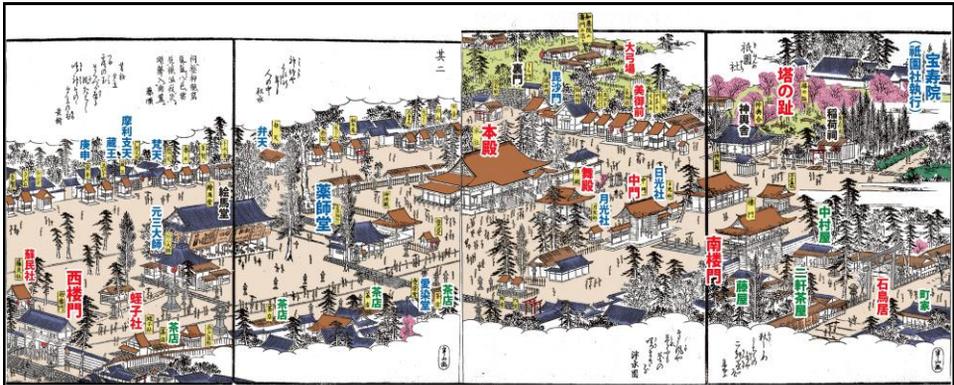
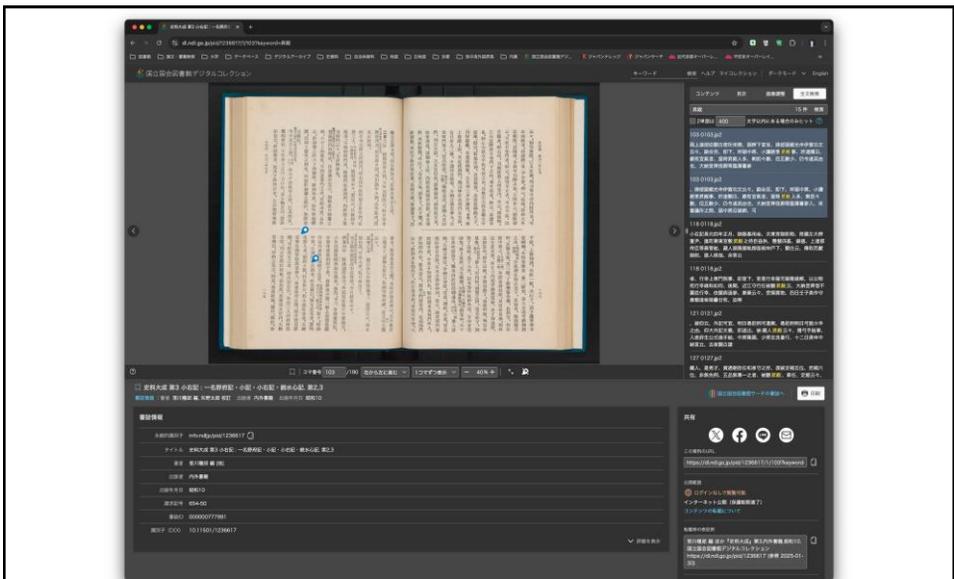


図1 幕末の祇園社『花洛名勝図絵』元治元年（1864）
 【国際日本文化研究センターを着色加筆】

近年の成果

利用規約の変化：オープン化の趨勢

21



国立国会図書館（NDL）デジタルコレクション

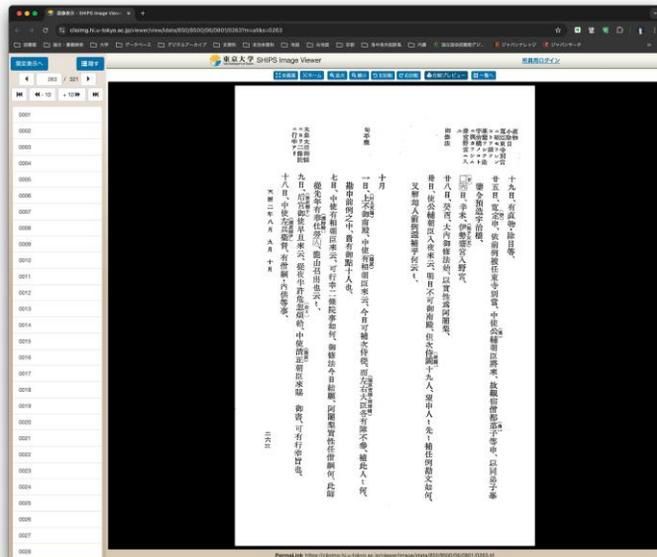
オープン化の好例

22



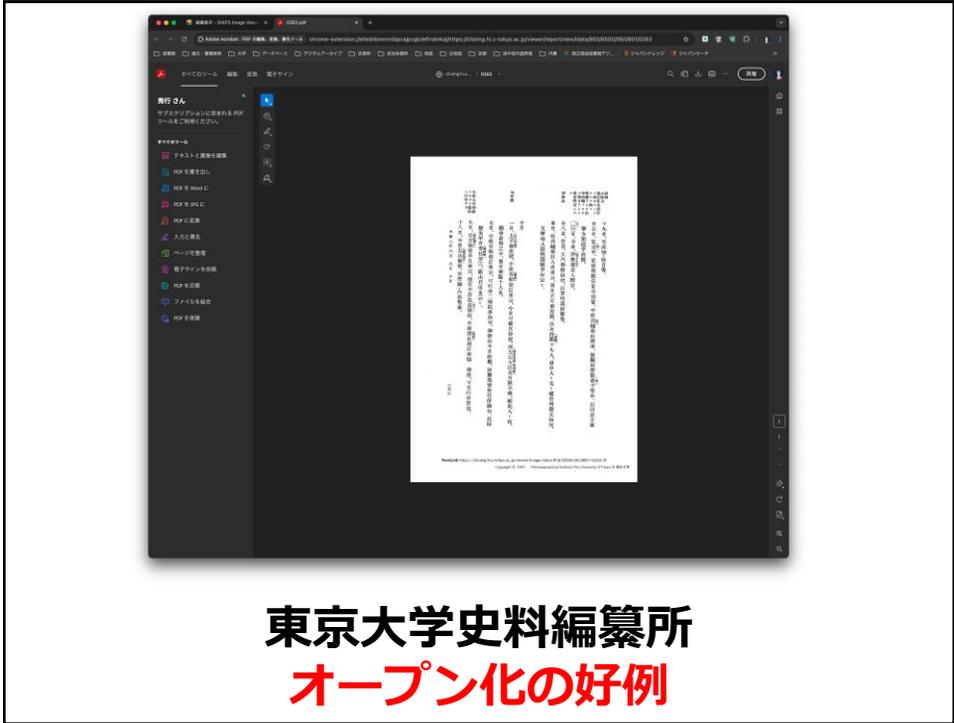
**国立国会図書館（NDL）デジタルコレクション
高解像度データのダウンロード可能
5304x3762 1.5MB**

23



**東京大学史料編纂所
オープン化の好例**

24



25



26

とある国立大学図書館デジタルアーカイブ

成果と課題

1. デジタルアーカイブ**公開自体は進展**
2. 利用規約に未だ**クローズな条件多い**
3. 高解像度データの**ダウンロード不可**が難点

→ 「**閲覧**」**主体**が依然多数

→ **ローカル環境**の活用（**データ加工**）は想定外!?

→ ユーザーの**自己決定権**を確保しよう！

※ **権利擁護**の視点をぜひ